

なるほどなっとくニュース

県立山口博物館

学校地域連携担当

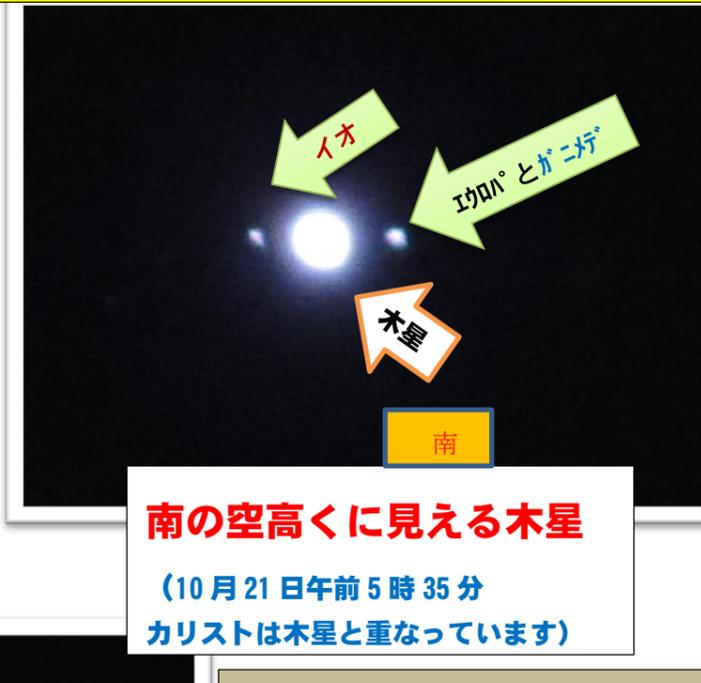
なっとくんの「なるほどなっとくニュース」は、県立山口博物館のホームページでダウンロードすることができます。

ちどうせつ とな きも すこ もくせい えいせい 「地動説」を唱えたガリレオの気持ちが少しわかる「木星とその衛星」



東の空に昇る木星

(10月21日午前0時41分)



南の空高く見える木星

(10月21日午前5時35分)

カリストは木星と重なっています



★春に撮影した

西の空に沈む木星

(5月2日 20:17) イオは木星と重なっています。今の時期

木星は、昼間に沈むので、沈むところは見えません。

木星の衛星のうち、ガリレオ衛星とは、イオ、エウロパ、ガニメデ、カリストの4つのこと。衛星は現在67個見つかっています。

東の空に昇る木星・・・その2

(10月13日午前1時26分)

カリストは木星と重なっています

木星などの惑星は、太陽と同じように毎日、東から昇り、西に沈んでいくように見えますが、惑星は太陽の周りをまわっているので、惑星のみかけの動きは、太陽のみかけの動きとは異なって見えます。また木星の衛星は、日にちが変わればもちろんのこと、少し時間が過ぎただけでも見え方がどんどん変化します。このような衛星の複雑な動きは、天動説では説明が難しく、地動説の根拠の1つとなりました。

今年ことしの秋は、夜あきが更よるけると東ひがしの空そらに冬ふゆの星座せいざとともに木星もくせいが昇のぼってきます(41号参照)。この木星もくせいを天体望遠鏡てんたいぼうえんきょうや双眼鏡そうがんきょうで見ると簡単かんたんに衛星えいせいが見つかります。よく見える大きな4つの衛星えいせいはガリレオ衛星えいせいとも呼よばれ、金星きんせいの満ち欠けみや大きさかの変化おおなどとともに約400年前やくにガリレオ・ガリレイねんまえが「地動説」ちどうせつを唱となえる根拠こんきよの1つおおになったものへんかです。
(天体の画像は、デジタルカメラで撮影して拡大・修正しているの、画像が粗くなっています。)

惑星のなかまの「金星」と「火星」も観察してみました。アイソン彗星はこれからのお楽しみ!



西の空に沈む金星。春や夏とはみかけの大きさや形が異なります。(10月21日 18:21)



金星の拡大図。満月のような状態から、欠けていく途中で、これからさらに細く大きく見えるようになります。



朝方、東の空のしし座のあたりに少し赤く見える火星が昇ってきます。(10月21日 5:00)

このあたりにアイソン彗星があったはず。これから明るくなることを期待しましょう。(場所は少しずつ移動するので調べてみましょう。)